

道のりはまだ長い

(原文は英語)

モハメッド・タウシフ・ラーマン・チョウドゥリー (21 歳)

バングラデシュ・ダッカ市

バングラデシュ工科大学

私の国では、人生で最も大きな功績とは国を出ることだ。皮肉に聞こえるが、それが現実である。私は学部生で、現在、電気電子工学の理学士号の取得を目指している。中流家庭の出身で、私も家族もこの国で安定した生活を送っている。それでも、両親は私が大学を卒業し学識を得て、この国を永久に出ていくことを望んでいる。私も子どもの頃から同じ夢を持っていた。

私は大学の寮に住んでおり、寮のそばには地元の市場がある。ある朝、そこで朝食を食べていたところ、店に 60 歳ぐらいの老人がやってきて食器を洗い始めた。最初は店で働く普通の従業員だと思っていたが、突然普通とは違う動きに気づいた。彼はポリ袋を持っていて、ただ食器を洗うだけでなく、皿に残っていた食べ残しをポリ袋に入れていたのだ。それは私にとって極めて珍しい光景だったため、私は彼に興味を持った。そこで彼に話しかけてみた。

この老人はダッカの路上で生活しているその辺のホームレスだった。彼は毎朝食べ残しを持って行ってもいいという取り決めを食べ物屋と交わっていて、その見返りとして食器を洗っていたのだ。年のせいで歩くのがやっとなこの老人は、毎朝この店に来て集められるものを集めているのだ。そしてこの食べ物を、去年心臓発作を起こしてから動くことができなくなった病気の妻のもとに持って帰っている。さらに、精神的に不安定でありその病気のせいで夫が去ってしまった娘の面倒も見なくてはならないのだ。

この老人が抱えている苦勞を想像できるだろうか。どんなにつらいか、きっとあなたには分からないだろうし、他の誰にも分からないだろう。不運が原因なのかどうかは分からないが、こういった老人が彼ひとりだけではないことは間違いない。世の中には彼のような人が何百万人もいるのだ。

多くの素晴らしい魂の持ち主たちが、この世界をより良い場所にするために人生をささげてきた。しかし、それは常に少数派だ。恵まれた人々の中には親切であろうとしている人もいるが、それで足りることはないのだ。

イエメンでは戦争が起きていて、深刻な人道的危機が進行中である。バングラデシュの難民シェルターでは、ロヒンギャの人たちが非人道的な生活をしている。アフリカの大部分では常に飢餓、食糧危機、水の危機が起きている。世界中に何百万人もホームレスが存在している。文明はここまで発達したにもかかわらず、世界中で膨大な数の人々が基本的な医療を受けることができてない。世界各地の

子どもたちが、極度の貧困による栄養失調が原因で亡くなっている。適切な食事にあり付けない毎日を過ごしている人々もいる。世界は厳しい難民危機を目の当たりにしている。

今こそ自分たちに問うべきだ。これが私たちの望む世界なのかと。

私は自分自身にそれを問いかけ、その答えは明白だった。こんな世界で生きていくたくはない。絶対にこの世界を変えなくてはならない。しかし理性的に考える必要がある。今のところ、私にはアフリカの子どもたちやイエメンの人々を助けることはできない。しかし朝食を食べている時に会った、老いたホームレスの男性を助けることはできる。彼の人生を劇的に変えることはできないが、彼に親切にすることはできる。自分のできる限り彼を援助することは可能だ。人々の親切にしようという意欲を高めるよう働きかけることもできる。現在私が助けられるのは一つの貧しい家族だけだが、みんなで力を合わせれば無数の人々を助けられる。恵まれない人々を助けるのに世界中の富は必要ない。ただ手を差し伸べる優しさが必要なのだ。

そしてこの時、私は自分の国を出ていきたくないと自覚した。この国に残り、優しさがあふれる社会を築くために全力を尽くす必要があると感じたのだ。そして、これを達成するには長い道のりを歩まなければならない。